


## 『知的・発達障がいのある子どもへの性暴力防止セミナー2026』第2部各回の概要

	ゼロベースⅠ	ゼロベースⅡ	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
目的	知的・発達障がいのある子どもとのコミュニケーションでめざすことを共有する。 	子どもが時間をかけてセルフアドボカシーへ向かう過程のイメージを共有する。 	子どもが自己肯定感を高め、自分のバウンダリーにしなやかに立てるよう、日常のコミュニケーションを支えるイメージを持つ。	子どもが「今、ここ」と時間のつながりを捉え、けんりの主体として自分の時間を生きられるよう支えるイメージを持つ。	当事者とのコミュニケーションを振り返り、子どもの自己決定・自己選択を支えるイメージを持つ。 	コミュニケーション支援でやりとりを見える形にし、当事者と直接向き合って対話する工夫のアイデアを広げる。	金銭感覚を育むことが自律を育み、けんりの主体としての自立の道のりと捉え、社会資源との協働を視野に入れる。
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どものウェルビーイングとけんりの実現に向け、セルフアドボカシーを育む</li> <li>●障がいのある子どもとのコミュニケーション</li> <li>●知的・発達障がいのある子どもたちが、「知らない・分からない世界」から「知っている・分かる世界」へ</li> <li>●子どものセルフアドボカシーの循環</li> <li>●セルフアドボカシーを支えるコミュニケーション</li> <li>●日常の中でセルフアドボカシーを育む</li> <li>●困りごとやニーズを把握し適切な支援へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時系列でたどる事例の変化</li> <li>●コミュニケーション支援ツールが伝わりやすさと人とのつながりを高める</li> <li>●支援者の関わり方の要点と、子どもが安心できるコミュニケーション環境づくりのポイント</li> <li>●事例提供)わたしの“やらかし”を共有</li> <li>●“尊厳”が自己肯定感と自己効力感に与える影響</li> <li>●多様なコミュニケーション支援ツール</li> <li>●当事者の力を信じ、伝え合う姿勢が生むエンパワメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニケーション支援の全体像</li> <li>●「〇×メモ」を継続使用で、支援者にも変化が生まれる</li> <li>●子どもが自分に〇をつける機会を増やす</li> <li>●「わたし」の習慣を変える10秒レッスン～</li> <li>●同一性保持と、過去の記憶からの解放</li> <li>●コミュニケーション支援を、いつでもどこでも当たり前</li> <li>●障がいのある子ども一人ひとりが、けんりを行行使する主体であり、それぞれにバウンダリーがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもが「いやだ」と感じて、どうしても必要なことや避けにくいことがある—子どもが安心できるコミュニケーション</li> <li>●「今、ここ」という時間の感覚と連続性を理解することで、主体として生きる力を育む</li> <li>●時間軸を持つ</li> <li>●巻物カレンダーの活用例—子どもの成長に合わせた変化</li> <li>●「また伝えよう」「やってみよう」という内発的な動機づけ</li> <li>●STOP!障がいがあるから、STOP!どうしようもない(思い込みを手放す)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども本人とコミュニケーションしている?</li> <li>●自己選択と自己決定</li> <li>●知的・発達障がいのある子どもの選択をめぐる誤解</li> <li>●選択の機会を保障し、自己選択・自己決定を支える</li> <li>●自己選択・自己決定に向けた3つのステップ</li> <li>●「選ばせる」ことが目的ではない</li> <li>●「選ばない」ことも選択の一つ</li> <li>●選択肢の示し方を工夫する</li> <li>●ケーススタディ—おこづかいの交渉</li> <li>●4つのC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●さまざまな場面で、一貫したコミュニケーション支援は可能</li> <li>●支援者にも子どもにも理解困難なコミュニケーションの現状</li> <li>●「困っているのは子ども」という視点をもつ</li> <li>●目に見えない情報は消えていく—消えない情報(見える形へ)</li> <li>●直接向き合って対話する大切さ</li> <li>●話を見える形にして、わかりやすく伝える工夫</li> <li>●継続的な支援ツールの活用がもたらすもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウェルビーイングとけんりの実現のために金銭感覚を育む</li> <li>●金銭感覚の形成を妨げる要因</li> <li>●金銭感覚を育む実践で用いたツール例</li> <li>●事例を通して考える金銭感覚を育む支援</li> <li>●金銭感覚を育む過程で起こること</li> <li>●「親が管理すべきか」「お金を持たせておくべきではないか」という社会通念</li> <li>●子どもが責任を引き受けるけんり社会資源と連携しコミュニケーションを通じてしなやかな自律・自立を支える</li> </ul>
事例のツール	事例を通じてご紹介するコミュニケーション支援ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き出しロング</li> <li>・おはなしツイン</li> <li>・おはなしメモ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇×メモ</li> <li>・どうしてメモ</li> <li>・4コマメモ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻物カレンダー</li> <li>・見通しメモ</li> <li>・見通し下敷き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えらぶメモ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはなしツイン</li> <li>・おはなしメモ</li> <li>・みとおしメモ</li> <li>・吹き出しロング</li> <li>・4コマメモ</li> </ul>	